

遺族・患者の健康状態調べ

予想を上まわる悪化

三池大災害の深い爪跡

今、CO患者や大爆発遺族の健康状態の悪化が取り沙汰されているが、このほど三池大災害裁判原告団の手で、なお不十分を残しながらもその実態が明らかにされた。改めて労働災害の爪跡がいかに深いものであるか、を鋭くつづけている。

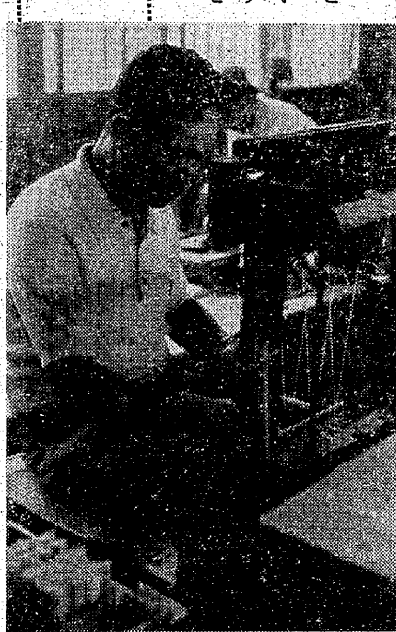
CO患者・遺族自らの要求を、働くにも働けない「労働不能者」にまで、その要求をもつて三池大災害であることがわかった。

労働組合をはじめとする働く者の連帯、そのなかの一人に、渡辺さち子に包まれながら、闘いに立ちあがり、(44歳)が、大爆発で犠牲となった。このままですと、八代郡鏡町大字鏡町四七四に住んできた調査結果にもとづいて、CO患者・遺族の健康状態を明らかにした。きわだって、悪化の傾向を示している。

遺族の場合

今遺族会の会員は九十七人。そのうちの十七人が、病弱のために過労がたたったと見え数年前から

「高血圧症が出、そのうえ肋間神経痛まで加わってきた。鏡町の病院で五十年秋以来治療を続けている。店を休めば客に逃げられるので、歯を食いしばって営業を続けているもの、さすがに頭がフラフラしては店を休むことが多くなっている。



「ノリみすを編むCO患者。体のなかに爪跡が今も」

患者の場合

今新港作業所に働く患者は四十三人。うち二十五人が、いかなる

が死亡したことは周知の通りであるが、死因に内臓疾患が多いのが目につく。

CO中毒死(と認められた者)五人、肝硬変四人、肺がん・肝臓がん・交通事故・病名不詳などいづれも二人ずつ、脳脊髄膜炎・気管炎・分泌物による閉鎖・疲労蓄積・喉頭がん・脳出血・急性脳死・潰瘍性大腸炎・変死それぞれ一人、となっている。

以上にも、CO中毒症が影のようになすをひいているのがわかる。次に、かんじんの疾病の状態を造成職場の一つ——新港作業所について見よう。

北摂の仲間と交流して

やっぱ、闘いを

職場から強めること

宮崎 勝

七月十六日、北摂の仲間が三池労働組合にやってきました。(宮崎勝さんら八人。北摂労対策会議代表)

三池からの交流に参加したのは組合役員、保安委員、CO分会のみなさんたちでした。

北摂の仲間たちは、三池におけるCO闘争(命と権利を守る闘い)の職場での取り組みと、自らの闘いとつぎを合わせ、職場における生命と権利を守る闘い、労働・職業病の闘いの不十分さを克服し、発展させたいというので、さらには交流を重ねることによって労働者階級の連帯を強めていきた、ということだった。

北摂の仲間から、国鉄労組新幹線大阪支部における死に闘争の実態、大阪水素工業の安全無視、職場環境破壊による災害の激増などが報告され、じん肺、腰痛症、けいれん、腕障害などの職業病の実態と取り組みが報告されました。

私たちも、CO闘争の取り組みや、四山指導部で経験した熱中症撲滅の闘いと職業病認定闘争、さらには企業病院をボイコットし、医師の選択の自由獲得闘争や三池指導部で経験した保安靴の強制着用に対する反対闘争、官備指導部で取り組んでいる年一回の一点検・摘発改善闘争など、職場での具体的な闘いの取り組みを出し合いました。

討論のなかで明らかにしたのが、職場における合理化攻撃がどの職場でも一体であること、この職場でも生命と権利を守る闘い、労働・職業病の闘いの不十分さを克服し、発展させたいというので、さらには交流を重ねることによって労働者階級の連帯を強めていきた、ということだった。

北摂の仲間から、国鉄労組新幹線大阪支部における死に闘争の実態、大阪水素工業の安全無視、職場環境破壊による災害の激増などが報告され、じん肺、腰痛症、けいれん、腕障害などの職業病の実態と取り組みが報告されました。

私たちも、CO闘争の取り組みや、四山指導部で経験した熱中症撲滅の闘いと職業病認定闘争、さらには企業病院をボイコットし、医師の選択の自由獲得闘争や三池指導部で経験した保安靴の強制着用に対する反対闘争、官備指導部で取り組んでいる年一回の一点検・摘発改善闘争など、職場での具体的な闘いの取り組みを出し合いました。

けっしてクイ
ズじゃない話

連絡

遺族・CO患者、それにその家族の皆さん、このページはみなさんのものです。すすんで投稿いただきたいと思ひます。

北摂の仲間との交流で感じたこと、反省させられたことなどたくさんありますが、大変意義があったことを報告し、私たちが三池の運動(反合理化・反独占闘争)を自信をもつて発展させるために、職場の闘いを強めてゆきましょう。(筆者は四山指導部)

被爆32周年原水禁 世界大会と課題

主張

核エネルギーが、日本における資本主義の発展が、第二次世界大戦の終結、アメリカの核エネルギーを軍事的に使用したヒロシマ、ナガサキにおける原爆投下という悲劇によって、終りを告げた。

現在、核をめぐる情勢はきびしいものがある。米ソを先頭に、核軍備拡張は、一九六三年の部分的核実験禁止協定以来、核軍縮については見るべきものはなく、今日に至っている。

とくに、ベトナム戦争終結後の核使用によるフュージョン化への警戒、KCIA(中央情報機関)の国際的暗躍による政治腐敗への影響があるため、アメリカ自体の核戦略体制そのものの変更に意味するものではない。

また、日韓汚染の構造的な腐敗事件を追究し、日韓大陸棚協定にみる経済的な不平等への支援を、すめる日本政府の反動的日・米・韓軍事体制への動向を監視し、平和と民主主義を守るひとつのたたかいは積みあげながら、再び暗黒なフュージョン的政治への逆行を許さない力をつくりだすため、労働者階級を中心に、ひろく国民階級のなかで拡大発展させることこそ、三十二年世界大会をむかえるにあたっての闘いになることではないだろうか。

三十二年世界大会をむかえるにあたっての闘いになることではないだろうか。

三十二年世界大会をむかえるにあたっての闘いになることではないだろうか。

第二次世界大戦の終結は、アメリカの核エネルギーを軍事的に使用したヒロシマ、ナガサキにおける原爆投下という悲劇によって、終りを告げた。

現在、核をめぐる情勢はきびしいものがある。米ソを先頭に、核軍備拡張は、一九六三年の部分的核実験禁止協定以来、核軍縮については見るべきものはなく、今日に至っている。

とくに、ベトナム戦争終結後の核使用によるフュージョン化への警戒、KCIA(中央情報機関)の国際的暗躍による政治腐敗への影響があるため、アメリカ自体の核戦略体制そのものの変更に意味するものではない。

また、日韓汚染の構造的な腐敗事件を追究し、日韓大陸棚協定にみる経済的な不平等への支援を、すめる日本政府の反動的日・米・韓軍事体制への動向を監視し、平和と民主主義を守るひとつのたたかいは積みあげながら、再び暗黒なフュージョン的政治への逆行を許さない力をつくりだすため、労働者階級を中心に、ひろく国民階級のなかで拡大発展させることこそ、三十二年世界大会をむかえるにあたっての闘いになることではないだろうか。

三十二年世界大会をむかえるにあたっての闘いになることではないだろうか。